



分合ノ法則ヲ論ジテ個人主義及ビ國家主義ノ協同ニ 及ブ

丸谷, 喜市

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 22(1):59-78

(Issue Date)

1917-01

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00052640>



分合ノ法則ヲ論ジテ個人主義及ビ

國家主義ノ協同ニ及ブ

長崎高等商業學校教授

商學士 丸 谷 喜 市

一

『個人カ國家カ』個人主義カ國家主義カ』トハ苟モ人間生活乃至社會生活ナルモノヲ眞面目ニ考察スル者ノ一タビハ必ズ遭遇スル問題デアアル如クデアアル。殊ニ人間ガ一般ニ漸ク覺醒シツ、アル近代ニ於テハ此問題ハ一層ソノ切實ノ度ヲ加ヘツツアルヤウニ思ハレル。

之ハ洵ニサモアルベキ事デ、部分ト全體、個人ト國家トノ關係ニ就テ明確ナル解釋ガ得ラレナイナラバ、我々ハ政治、經濟、法律、宗教、教育、文藝等、社會生活ノ總テノ方面ニ互テ一日モ合理的ナ、且ツ平安ナ生活ヲ送り得ナイ譯デアアル。然ラバ、現代ハ果シテ此問題ニ就テ充分ナル解決ヲ得テ居ルデアラウカ。筆者ハ甚ダ之ヲ危ムモノデアアル。之ハ經濟學ニトツテモ等シク重要ナル問題デアアルガ今日經濟學者ノ多數

ハ果シテ此問題ニ對シテ明確ナル解釋ヲ持テ居ルデアラウカ。失禮ナガラ筆者ハ亦之ヲ危ムモノデアル。

從來、一般ノ見解ニ於テハ、個人主義ト國家主義トハ根本的ニ相矛盾スルモノデアツテ、如何ニシテモ相互ニ兩立スル事ノ出來ナイモノデアルカノ如クニ考ヘラレテ居ルノデアルガ、之ガ抑モ大ナル誤リデアル。此點ニ關シテハ昨年吉野作造博士ガ中央公論九月號所載『國家中心主義個人中心主義ニ思潮ノ對立、衝突、調和』ナル論文ニ於テ極メテ妥當ナル見解ヲ示サレタ事ヲ喜ブノデアツテ『ソノ最モ精鍊サレタ形ニ於テ、國家中心主義ト個人中心主義トハ、議論トシテ本來何等乖離矛盾スベキモノデナイ』ト言フ博士ノ論旨ニハ筆者ハ全然贊同スルモノデアル。唯併シナガラ、何故ニ此ノ兩主義ハ本來相矛盾スベキモノニ非ズシテ、却テ調和スベキモノデアルカ、ト言フ根本ノ理由ニ至テハ、前後四十頁ニ餘ル博士ノ此ノ論文ニ於テハ遂ニ之レヲ見出ス事ガ出來ナカツタ事ヲ甚ダ遺憾ニ思フノデアル。ノミナラズ博士ガ

『實際ノ主義トシテ觀レバ此二ツノ主義ハ兩々相排斥スルヤウナ形ニナル。之レ殘念ナガラ亦止ムヲ得ナイ。而シテ此兩者ヲ併用シテウマク調和ヲ取ルトイフコトハ六ツカシイカラ、政治ノ實際ニ當テハ前ニモ述ベタ通り、時ト場合ニヨツテ其何レノ主義ニ主トシテ據ルベキカタ定ムルノ外ハナイ』トカ

『サテ此ノ議論紛々トシテ定ラナイトイフ事ハ、モト兩主義本來ノ關係ヨリ來ル當然ノ結果デアルガ、之ハ政治上常ニ憂フベキ事カト言フニ必ズシモサウデハナイ。何トナレバ之ガ又一面ニ於テ、實際當局ノ政治家ヲ牽制シテ國政運用ノ方針ヲ誤ラシメザルヲ得ルノ利益モアルカラデアル』

トイフ如キ事ヲ言テ、博士自ラノ主張ヲシテ何トナク薄弱ナル感アラシメ、博士ハ國家主義ト個人主義トノ調和ヲ提唱スルニ就テ、果シテ何程ノ強固ナル根柢ノ上ニ立テ居ラル、ノデアラウカト言フ疑問ヲサヘ挾ムノ餘地アラシメタト言フ事ハ甚ダ遺憾ナ事ト言ハナケレバナラヌ。洵ニ博士ノ言ハル、如ク、國家主義ト個人主義トハ本來乖離矛盾スベキモノデナイナラバ、而シテ、爲政ノ局ニ當ルモノニ、能ク事情ヲ洞見シ、利害ヲ判斷スルノ聰明サヘアルナラバ、『此兩者ヲ併用シテウマク調和ヲトルト言フ事』ハサマデ六ツカシイ事デハナイ筈デアル。又此ノ如ク其ノ本來ノ性質ニ於テ調和スベキ筈ノ二ツノ「イズム」ニ就テ常ニ『議論紛々トシテ定マル所ガナイ』ト言フガ如キ事ハ明カニ極メテ無用ニシテ、且ツ愚劣ナ事ト言ハナケレバナラヌノデアル。

筆者ハ今、個人主義及ビ國家主義ノ對立ト言フ大問題ヲ總テノ方面カラ論ジ盡サウト言フ考ヲ以テ此文ヲ草スルモノデハナイ。唯生活進化ニ關スル一法則ヲ藉リ來ツテ、其上ニ個人主義及ビ國家主義ノ調和ト言フ事ニ對スル一ツノ根據ヲ見

出シタイト言フノガ本論ヲモノスル筆者ノ主意デアル。固ヨリ筆者ノ貧寒ナル腦裡ノ產物、諸彥ノ叱正ヲ得バ幸デアル。

先ヅ進化ニ關スル法則カラ出發スル。

二

スベンサーガ進化ノ法則ニ就テ言フ所ニ從ヘバ、凡ソ進化ト言フ事ニハ常ニ次ノ四ツノ事實ガ伴フモノデアル。曰ク、

(一) 統合

(二) 分化

(三) 確實性ノ増加

(四) 部分ノ運動ガ全體ノ運動ニ化スルコト

(Herbert Spencer, Synthetic Philosophy, First Principle, Chap. XII—XVI.)

筆者ヲ以テ見ルニ、以上ノ中前ノ二者ハ進化ノ形式ヲ言フモノデアツテ後ノ二者ハ其ノ内容ニ關スルモノデアル。ノミナラズ、後ノ二者ハ前ノ二者ニ伴フ當然ノ結果ト見ルコトガ出來ルノデアル。例ヲ人間ト人間ノ組織スル社會ニトツテ言フナラバ、(一)多數ノ人間ガ或ル力ノ下ニ統合セラレテ社會ヲ造リ、而シテ(二)此社會ノ

内部ニ於テハ種々ノ階級ノ分化ヤ、身分ノ分化ヤ、機關ノ分化ガ起ル。此ノ如ク分化シタモノガ又他面ニ於テ益々統合セラル、ト言フ事ニ依テ社會組織ハ進化シテ行クノデアル。コ、迄ハ進化ノ形式デアルガ、此ノ如ク一方ニ於テ分化ガ起リ、他面ニ於テ統合ト言フ事ガ存スルトスレバ(三)社會組織ガ益々明確ナル基礎ノ上ニ立チ、益々確固タル體貌ヲ有スルニ至ルノハ當然ノ事ト言ハナケレバナラヌ(四)又此クノ如ク社會組織ガ進歩スルニ從テ、其組成分子タル個人ノ活動ガ或ル部分ニ於テ束縛セラル、ト同時ニ團體タル社會ガ團體トシテノ獨自ノ活動ヲ有スルニ至ルト言フ事モ亦統合ト言フ事ニ伴フ必然ノ結果ト言ハナケレバナラヌノデアル。

此故ニ分化ト統合ト言フ事ハ主デアツテ、確實性ノ増加ト、部分ノ運動ガ全體ノ運動ニ化スル事トハ從デアル、後ノ二項ハ前ノ二項ノ中ニ當然含マル、モノト見ルベキデアツテ、之等ハ相對立スル四個ノ獨立ノ事實ト見ルベキモノデハナイノデアル。又既ニ述ベタ如ク、觀方ニ依テハ、前ノ二者ハ進化ノ形式デアツテ、後ノ二者ハ進化ノ内容ニ關スルモノト解スル事モ出來ルノデアルガ、今若シ進化ノ内包的意義ヲ言フナラバ此後ノ二個ノ事相、即チ確實性ノ増加ト、部分ノ運動ガ全體ノ運動ニ化スルト言フ事ノミヲ以テシテハ到底之ヲ盡ス事ハ出來ヌノデアツテ、少ク

トモ此外ニ其變化ガ吾人ノ價值判斷ニ適合スル事ヲ舉ゲテバナラヌト、筆者ハ信ズルノデアル。併シナガラ進化ノ内容ニ就テハ今之ヲ論ズルノ必要ヲ見ナイカラ其點ニ就テハ議論ヲ省略スルコト、シテ進化ノ形式ト言フ方カラ言フナラバスペンサーノ舉ゲタ分化ト統合ト言フ事ハ何人モ之ヲ否定ズルヲ得ザルベク、且ツ此二事ヲ舉グルヲ以テ足ルト信ズルノデアル。

尙、スペンサーハ以上述べタ如キ彼ノ進化ノ法則ヲ以テ、無機ノ世界及ビ宇宙ノ進化ニ就テ言フモ其眞タルヲ失ハ、ヌモノトシテ居ルノデアルガ、議論ヲコ、迄擴メテハ廣ク世ノ承認ヲ得ルコトハ不可能デアル——筆者自ラモ、無機ノ世界及ビ宇宙ノ進化ニ就テハ彼ノ言ヲ信ズル能ハザルモノデアル——ト思ハル、ノミナラズ今ハ其ノ如キ範圍ニ互テ議論ヲスルノ必要ハナイカラ、議論ノ範圍ヲ生活現象内ニ限テ筆ヲ進メルコト、スル而シテ此ノ如ク生活現象ノ範圍内ニ限テ言フナラバ以上論ジタル如キ進化ノ事實ハ恐ラク何人ノ異論ヲモ買フ事ハアルマイト信ズルノデアル。

三

諸テ以上ノ如ク問題ノ範圍ヲ生活現象内ニ限り且ツ進化ト言フ事ヲソノ外形

ノ方面カラ觀察スルナラバ我々ハ之ニ就テ次ノ法則ヲ確立スル事ガ出來ルノデア
アル。曰ク
凡ソ進化ト言フ事ハ常ニ分化(Differentiation)ト統合(Integration)ト、形式ヲ以テ現ハ
ル、モノデア
ル。

此事實ハ既ニ古クカラ認メラレテ居ルノデア
ルガ、筆者ノ寡聞ナル爲メカ、未ダ
之ヲ一個ノ法則トシテ論ジ、之ニ適當ナル名稱ヲ附シタ學者アルヲ聞カヌ——スベ
ンサーハ其所謂進化ノ法則中ニ此事實ヲ擧ゲテ居ルノデア
ルガ、進化ノ法則ナル
語ノ不適當ナル事ハ前述セル所ニ依テ明カデア
ラウト思フ——ノデ止ムナク筆者
自ラ之ニ命名シテ分合ノ法則(Law of Differentiation and Integration)ト言ハウト思フ。此名
稱ノ當否ニ就テモ筆者ハ識者ノ高教ヲ俟ツモノデア
ル。

此法則ハ生活現象ノアラユル方面ニ互テ之ヲ立證スル事ガ出來ルモノデア
ル
今煩雜ナル説明ヲ以テ讀者ヲ煩ハス必要ハナイト思フガ、最モ手近ナ二三ノ例ヲ
擧グルナラバ、例ヘバ生理機關ノ進化ハ能ク此法則ヲ語ルモノデア
ル。今試ニ「アミ
ーバ」ヲ如キ原生動物即チ進化ト言フ點カラ見テ「ゼロ」ノ動物ト、進化ノ頂上ニア
ル
人間ト言フ動物トノ生理機關ヲ比較シテ見ルト洵ニ霄壤モ霄ナラザル相違デア
ル

ル。言フ迄モナク「アミーバ」ハ單細胞動物デ、手モナク、足モナク、眼モナケレバ口モナイ簡單ナル原形質ノ一塊ニ過ギヌ。而シテ唯時々其ノ體表ヨリ突起ヲ出シテ或ハ移行シ、或ハ捕食スルノミデアル、然ルニ人間ニ於テハ雷ニ其ノ體軀ガ無數ノ細胞群カラ成立テ居ルノミナラズ、ソレ等ノ細胞群ハ種々ノ組織ヲ造リ、更ニ種々ノ機關ヲ形成シテ居ルノデアル。即チ感覺機關——視感覺機關、聽感覺機關、味感覺機關、嗅感覺機關等——運動機關、呼吸機關、消化機關、排泄機關等之レデアル。而シテ、此ノ如ク人間ト「アミーバ」トハ其ノ外形ノ著シク相違シテ居ルニモ係ラズ、進化論ノ教フル所ニ從ヘバ、他ノ海月ヤ、蛙ヤ、鳥ヤ、魚ヤ、猿ナド、共ニ共同ノ祖ヨリ出タモノデアル。今、生物進化ノ中間ノ經過ハ之ヲ省略スル事トシテ、「アミーバ」ノ生理機關ト人間ノソレトヲ比較スルナラバ、如何ニ進化ト言フ事ハ分化ト統合ト言フ形ヲ以テ進行スルカバ了解サレルダラウト思フ。尤モ斯ク言ヘバトテ「アミーバ」ニハ全ク人間ノ手足ヤ眼口ニ相當スル働きガナカツタト解シテハナラヌ。「アミーバ」ト雖モ其ノ體表ヨリ突起ヲ出シテ移行シ捕食スル事ハ上ニ述べタ如クデアル。又同様ニ視感覺聽感覺、味感覺、嗅感覺、呼吸作用、消化作用、排泄作用ト言フ如キ事モ到底人間ノ如ク完全明確ニ働ク筈ハナイガ、而モ之等ノ作用ノ萌芽ハ既ニ「アミーバ」ニモアツタト

解スルノガ至當デアル。即チ「アミーバ」ハ極メテ漠然且ツ不完全デハアルガ、人間ノ意識スル光ト音ト味ト香トニ相當スル或ル感覺ヲ有シ、且ツ呼吸ト消化ト排泄トニ相當スル或ル作用ヲ爲スノデアル。唯「アミーバ」ハ之等ノ作用ヲナスヤ常ニ其體軀全體ヲ以テスル。即チソノ原形質ノ一塊ハ同時ニ人間ノ眼ト耳ト鼻ト舌ト、肺臟ト胃腸ト腎臟トニ相當スルモノデアル。言ヒ換ヘルト、未ダ分化ト言フ事ノ全然ナイ狀態デアル勿論、此ノ如キ狀態ニ於テハ之等ノ個々ノ作用ハ甚ダ渾沌且ツ茫漠トシテ彼是相分チ難キモノデアル事ハ止ムヲ得ナイ所デアル。然ルニ進化ニ伴フ生理機關ノ分化ノ結果ハ遂ニ人間ニ於テ上述セル如キ複雑ナル身體ノ組織トナツテ現ハル、ニ至ツタ。而シテ此クノ如キ機關ノ分化ハ又自ラ意識ノ作用、ソノ他ノ生理作用ヲシテ益々分明、確實且ツ有效ナラシメナケレバ止マスノデアル。此ノ如ク一方ニ於テ生理機關ノ分化ト言フ事が起ルガ、此ノ分化ト言フ事ハ他面ニ於テ統合ト言フ事ヲ伴ハチ甚ダ無用ナ事デアル。ソコデ又循環機關神經組織ナドガ益々發達シテ、上述ノ如ク分化セル諸機關ノ働キヲ生活テフ大目的ノタメニ結合スルノ作用ヲナスノデアル。此クノ如ク、分化セル諸種ノ機關ガ統合セラレ、一致協同スル事ニ依テ人間生活ハ維持セラレ、ソノ進化、發展ヲ遂ゲテ行クノデアル。

次ニ方面ヲ換ヘテ、學問ナルモノヲ例ニ探テ見ル時ニ我々ハ又同様ノ事ヲ言ヒ得ルノデアル。哲學卽チ Philosophyノ語源ハ希臘ノ「フィロソフィア」(Philosophia)ニアル事ハ何人モ知ル所デアルガ「フィロソフィア」ハ文字上ヨリ言ヘバ智慧ヲ愛スルト言フ意味ノ言葉デ、久シイ間單ニ學術ト言フ程ノ意味ニ用ヒラレタト言フ事デア
ル。之ヲ更ニ具體的ノ事實ニ就テ言ヘバ例ヘバアリストテレスノ學問ヲ見ルニ彼
ハ決シテ今日ノ意味ニ於ケル哲學ノミヲ研究シタモノデハナクテ、彼ノ學問ノ中
ニハ今日ノ哲學以外ニ論理學、倫理學ハ勿論、心理學、物理學、天文學、氣象學、動物學、政
治學、經濟學、美學等ニ至ルマデ包括サレテ居タノデアル。之ヲ以テ見ルニ此時代ニ
ハ哲學者ナル唯一種ノ學者ガアツテ、一切ノ學問、一切ノ知識ハ皆彼等ニ依テ研鑽
サレタ事ガワカルノデアル。此ノ如キ狀態ト今日ノ有様トヲ比較シタナラバ學問
ノ進歩ト言フ事ハ如何ニ分化ト言フ形式ヲ辿テ事實ノ上ニ現ハレテ來タカト言
フ事ガ了解サレラウト思フ。現今ニ於テハ此學問分化ノ傾向ハ果シテ那邊ニ
マデ進ムノカ殆ド想像ガツカスト言テヨイ程デアル。物理化學ヤ生理學ヤ、法學ヤ
經濟學ハ言フモ更ナリ、發音學、優生學、正字學、詞性學、彈道學ナド、日常殆ド我々ノ
考察ニ上ラナイヤウナ幾多ノ學問ガアル。ノミナラズ近クハ我國ニ於テモ航空學

運動生理學ナル二科ノ學問ガ起リツ、アル事ハ偏ク讀者ノ承知セラル、所デア
ラウト思フ、此クノ如ク一方ニ於テ學問ガ分化スレバ、其分化セル諸科學ニ依テ究
メラレタ種々ノ知識ハ哲學ニ依テ綜合セラレ、統一セラル、事トナル哲學ノ任務
ハ即チ統合ニアルト見ルベキデアル。

次ニ例ヲ經濟現象ノ方面ニ採テ言フナラバ、所謂分業ナルモノハ勞働ノ分化及
ビ統合ヲ意味スルモノニ外ナラヌノデアル。若シ Division of labor ヲ解シテ單ナル勞
働ノ分割ト考ヘル者ガアルナラバ夫ハ大ナル誤リデアル。又シーガーナドハ Divi-
sion of labor ノ代リニ Co-operation ト言フ語ヲ用ヒテ居ルガ、單純ナル協力ト言フ事モ
亦所謂分業デナイ事ハ明カデアラウト思フ。要スルニ分レルト言フ事ト、合スルト
言フ事ガナケレバナラヌ。即チ從來一個ノ仕事若クハ一人ノ仕事トシテ爲サレタ
モノガ、或ハ縱斷的ニ、或ハ橫斷的ニ幾ツカノ仕事若クハ過程ニ分レ、更ニ其ノ分レ
タモノガ、或ハ一經濟内ニ於テ技術的ニ結合セラレ、或ハ數經濟間ニ互テ交換ト言
フ手段ニ依テ、社會的ニ結合セラル、ト言フ事ガ分業ナルモノ、真相デアルト思
フノデアル。

更ニ他ノ例ヲ以テ言フナラバ、經濟ニ關スル Etimology ハ此ノ分合ノ法則ヲ暗示

スルモノデアル經濟即チEconomyノ語源ハ希臘ノ *oikos nomos* ニ出ヅルモノデ Order of the houseヲ意味スル事ハ何人モ知ル所デアルガ此事實ハ抑モ何ヲ語ルモノデア
ラウカ言フマデモナク往時——希臘ノ「エコス」モサウデアルガ——ニ於テハ各家族ハ
自給自足ヲ主義トスル孤立的ノ社會デアツタ。但シ此場合ニ於ケル家族ハ今日ノ
如キ小家族デハナクテ時トシテハ百人、二百人ニ餘ル人員ヲ包括スル大家族デア
ル。而シテ此時代ニハ今日ト違テ此ノ如キ家族ガ唯一ノ社會デコレヨリ小ナル社
會組織ノ單位モナケレバ又此上ニ之ヨリ大ナル社會ガ存スルデモナイ而モ此社
會ハ他ト交渉スル所ナクシテ自立シテ居ルノデアルカラ謂ハバ此ノ如キ家族生
活ガ唯一ノ社會生活デアリ又同時ニ唯一ノ經濟生活デアツタノデアル。家ノ統制
ヲ意味スル「エコス」ノモスノ二字ガ經濟ノ語源ヲナスト言フ事ハ一見異様ノ感ナ
キ能ハズデアルガ此ノ如キ事情ヲ考ヘルト言フト敢テ怪ムニ足ラヌ事ト言ハチ
バナラヌ。蓋ニ此ノ如キ家族生活以外ニ何等ノ經濟生活モ無カツタノミナラズ宗
敎生活モ政治生活モ亦此外ニハナカツタノデアル之ヲ今日ノ狀態ニ對照シテ見
ルナラバ如何ニ分化ノ未ダ起ラザルカラ想見スベキデアル。即チ後ノ時代ニハ經
濟政治宗教教育ト言フ如ク分レタモノガ此時代ニハ唯一ノ家族生活内ニ混淆シ

融合シテ存在シタノデアル。而シテ此事實ハ又直チニ社會生活ノ機關ノ上ニモ現ハレテ居ルノハ當然デアル。即チ此時代ニハ機關ノ分化ハアリ様ガナイカラ、唯一ツノ家ナルモノガ同時ニ政治ト經濟ト宗教ト教育トノ爲メニ存スル Organizationデアツタ。之ヲ政治ノタメニハ政府ト議會トアリ、經濟ノタメニハ會社、組合アリ、宗教ノタメニハ教會、寺院アリ、教育ノタメニハ學校ガアツテ互ニ社會生活ノ維持ト發展トノ爲メニ協力スル現今ト對照スルナラバ分合ノ法則ナルモノハ容易ニ之ヲ首肯スル事が出來ルデアラウト思フ。

四

以上ヲ以テ分合ノ法則ナルモノガ如何ニ生活現象ノ諸方面ヲ支配スルノ原理ナルカハ明カニナツタ事ト思フガ、今、社會生活乃至社會組織ナルモノヲ此法則ニ照シテ考ヘル時ニ、個人主義對國家主義ノ問題ハ一ノ解決ヲ見出スベキデアルト信ズルノデアル。論ヲ進ムルニ先ダツテ先ヅビュツヒアーノ經濟生活ノ發展ニ關スル説明ヲ聽ク必要ガアル。

ビュツヒアーハ其ノ著「國民經濟ノ成立」Die Entstehung der Volkswirtschaftニ於テ、人類經濟生活ノ發展ノ經過ヲ次ノ三段階ニ分ケテ居ル。

(一) 孤立的家族經濟時代。

(二) 都府經濟時代。

(三) 國民經濟時代。

此段階別ハ以テ必ズシモ適確ニ總テノ經濟生活發展ノ樣式ニ當テ箝メル事ノ出來ルモノデハナイガ、而モ人類ノ經濟生活ガ略ボ如何ナル發展ノ徑路ヲ經テ今日ニ至タカト言フ、其ノ大體ノ傾向ヲ示スニハ充分デアル。即チ第一ノ時代ハ他ト交渉シ交換スル事ナキ家族生活ノ時代、自給自立ヲ主義トスル經濟生活ノ營マル、時代デ、其ノ家族ハ勿論大家族ニハ相違ナイガ、之ヲ社會組織ト言フ方面カラ見レバ極メテ小ナル社會組織ノ存スルニ過ギナイ時代デアル。第二ノ時代ニナルト之ヨリ遙カニ大ナル經濟社會——交易經濟社會、即チ交換ヲ前提トスル經濟社會——ガ地方毎ニ都市ヲ中心トシテ成立スル。即チ政治上ニ於テ封建制度、地方分權ノ制度ナルモノガアル如クニ、此時代ト經濟上ニ於ケル地方分立ノ時代デアル、更ニ第三ノ時代即チ現今ニ至テハ、我々ハ民族の統一國家ヲ基礎トシテ、等シク交換ヲ前提トスル國民經濟生活ヲ營ムニ至ツタ。此時代ハ古來曾テ見ザル大ナル社會組織即チ民族の統一國家ノ實現サレタ時代デアル。翻テ家族ナルモノハ如何ニナツタ

カト言フニ、往時ニ於テハ大家族ノ形式ヲ有シテ居タモノガ漸次縮少シテ、現今デハ唯ダ一配偶ヲ基礎トスル小家族トナリ、國ト言フ大ナル交易經濟社會内ニ於ケル單位トシテ無數ニ存立スル事トナツタノデアル。福田德三博士ガ、經濟生活ノ發展ハ一面ニ於テ經濟組織ノ擴大ヲ來スト同時ニ他面ニ於テ經濟單位ノ縮少ヲ來スト言フ意味ノ事ヲ言テ居ラレルノハ（經濟學教科書二六頁及ビ四六頁）此事實ヲ指スモノデアツテ、恐ラク博士ノ創見デアラウト思フガ、誠ニ得難キノ卓見ト言ハナケレバナラヌノデアル。而シテ此ノ社會組織ノ擴大ト其單位ノ縮少ト言フ事ハ單ニ社會生活乃至經濟生活ノミニ關スル法則ニ非ズシテ、實ハ更ニ、更ニ大ナル法則ノ一顯現ニ外ナラヌ事ヲ思フ時、吾人ハ一層此ノ法則ノ眞實性ヲ主張スルノ理由アル事ヲ思フノデアル。更ニ大ナル法則トハ外デモナイ、分合ノ法則即チ之デア。蓋シ、社會組織ノ單位ノ縮少トハ分化ト言フ事ニ外ナラズ、社會組織ノ擴大トハ統合ト言フ事ニ外ナラヌノデアル、

單位ノ分化ト言フ事ヲ更ニ押シ進メテ言ヘバ個人ト言フ所ニ到達スルガ、世ノ進歩ニ伴フテ個人ト言フモノ、意義ガ漸次重キヲナシテ來タト言フ事ハ以上論ジタル所ヨリ推シテ毫モ怪ムニ足ラヌ所デアル。即チ社會生活ガ進歩シ、社會組織

ガ擴大スルト共ニ個人ト言フモノ、意義ト價值トガ漸次加ツテ來タノデアル。試ニ問フテ見ヨウ。現代ホド人格ノ尊重セラレ、個人ガ自由ヲ享有セル時代ハ歴史上果シテアルカ。斷ジテナイノデアル。而モ他面ニ於テ現代ハ曾テ見ザルホド擴大ニシテ且ツ強力ナル社會組織卽チ統一國家ノ成立セル時代デアル。之ハ一見矛盾ナルガ如クシテ實ハ然ラズ、一方ニ於テ國家テフ強大ナル社會組織ガアル(統合)ト言フ事ハ卽チ他面ニ於ケル個人ノ大ナル自由(分化)ト言フ事ト相照應スルモノデアツテ、實ハ共ニ進化ト言フ一大事實ノ異ナル半面ニ外ナラヌノデアル。

近世ノ初頭ニ於ケル「マーカンチリズム」ノ政策トシ言ヘバ極端ナル保護干涉ノ典型デアルカノ如ク記憶サル、ノヲ常トスルガ、而モ此時代ト雖モ經濟生活發展ノ大勢ハ依然トシテ上ニ述ベタ如キ傾向ヲ持續シテ居ルノデアル。此點ニ關シテハ同ジク福田博士ノ次ノ言葉ヲ引用シタイ。

『メルカンチリズムノ功過ヲ仔細ニ點檢シ來ル時ハ功ノ過ニ勝ル甚ダ多キニ居ル。經濟上極端ナル干涉主義ヲ取りタルハ終局ノ目的ニ達スル一階段ニ外ナラズ。畢竟スル所ハ却テ經濟上ノ自由活動ノ促進ニアリ』(改定經濟學講義第一卷、一五三頁)

當時實際ニ此政策ヲ行ツタ人々ガ果シテ『自由活動ノ促進』ト言フ目的ヲ自覺シタカ否カハ淺學ナル筆者ノ窺ヒ知ルヲ得ザル所デアルガ、少クモ結果カラ見テココニ到達シタ事ハ何人モ否定スル事ノ出來ヌ所デアラウト思フ。殊ニ之ヲ中世ノ

末葉ニ於ケル固陋ナル地方の保護干涉ニ對比シテ考ヘルナラバ「マーカンチリズム」時代ト雖モ大勢ハ等シク自由ト言フ事ニ向テ進シデ居タ事ガ了解サレルダラウト思フ。又中世即チ都府經濟時代ハ「ツンフト」「ギルド」ノ制度ヲ初メトシテ、著シク不自由ナル時代トシテ知ラレテ居ルノデアルガ、之亦後ノ時代ヲ以テ之ヲ律スルガ爲メデアツテ、之ヲ其ノ以前ノ孤立的家族經濟時代ニ比較スルト言フト、人格ノ自由ト言フ事ガ著シク増進シテ居ル事ヲ認メザルヲ得ナイノデアル。古代即チ家族經濟時代ニハ家長ノミガ人格ノ主體デ、他ハ妻子ヲ初メ皆家長ノ所有ノ目的物トシテ、奴隸ノ境遇ニアリ、生殺與奪ノ權ハ舉ゲテ家長ノ掌中ニアツタノデアル。之レニ引換ヘ、都府經濟時代ニハ都府ハ或ル範圍ノ自治ヲ行ヒ、所謂 *städtische Luft* *nacht frei* (都市ノ空氣ハ事物ヲ自由ニス) デ、近世ニ於ケル人格自由ノ觀念ハ實ニ其端ヲ中世ノ都市ニ發スルト言ハル、程デアル。

之ヲ以テ見ルニ、社會生活ノ進化ト言フ事ハ如何ニ一面ニ於テ社會組織ノ擴大ヲ來シタト同時ニ、他面ニ於テ個人ノ自由ヲ増進シタカヲ知ル事ガ出來ルト思フ。史的發展ノ經過ニシテ既ニ然リトセバ、國家的結合ノ上ニ重キヲ置カウトスル、國家主義ノ主張ト、個我ノ伸張ヲ力說スル個人主義ノ主張トハ相互ニ矛盾スベキモ

ノデナイ事ガ首肯サレラウト思フ。若シソレガ矛盾スルト言フナラバ、ソハ論者ソノ人ノ考ヘ方ガ誤テ居ル事ヲ示スモノト言ハチバナラス。此ノ如キハ要スルニ物ヲ絶對的ニ考ヘル事——之ハ何人モ動モスレバ陷リ易イ過失デアルガ——カラ起ル誤リデアル。即チ、或ハ絶對的ナル或ル者ヲ模索スルノ心ヲ以テ此兩主義ニ莅ミ、個人主義ニ非ズンバ國家主義、國家主義ニ非ズンバ個人主義ト言フ如ク考ヘルカラ此ノ如キ矛盾ガ生ジ、又或ハ初メヨリ國家主義若クハ個人主義ノ何レカ一方ニ絶對的ノ價值ヲ置イテサテ他ノ一方ニ對スルガ故ニ如何ニシテモ此ノ如キ撞着ヲ免レル事が出來ナイノデアアル。乍併世上遂ニ絶對的ナル何物モ存スル譯デハナイ。若シ強ヒテ絶對的ナルモノヲ求ムルナラバ、我々生ヲ有スルモノニ採テハ、廣イ意味ニ於ケル生命(個我ノ生命ニ非ズ)ノミガ絶對的ノ意義ヲ有スルト言フ事が出來ル。而シテ生命ノ發展ハ既ニ述ベタルガ如ク必然ニ分化ト統合ト言フ形式ヲ以テ現ハル、モノトスルナラバ、個人主義ト國家主義トハ決シテ相互ニ矛盾スベキ筈ノモノデハナイ。否、個人主義ノ企圖スル所モ、國家主義ノ主張スル所モ、コノ生命ノ存續ト發展ト言フ大目的ノタメニ交會シ、協働シ調和スベキ筈デアルト言ハナケレバナラス。

問題ハ生命ノ發展ト言フ所ニ到達シタガ此ノ生命ノ發展ト言フ事ハ我々ノ考ヘ得ル最モ確實ニシテ且ツ最モ強大ナル事實デアル。敢テベルグソンノ口吻ヲ倣フワケデハナイガ、生命ノ始原ヨリ今日ノ人間ニ達スルマデ其ノ向上發展ヲ持續シ來ツタ、ソノ生命ノ流レ、ソノ生命ノ大軍ノ前ニハ個體、個我ト言フモノハ殆ンド無力デアアル。個體ハ唯ソノ大生命ノ一部ヲ體現シ、ソノ向上發展ヲ分擔スル限りニ於テ意義ヲ有スルニ過ギヌノデアアル。而シテ此ノ生命ノ發展ガ分化ト統合テフ形式ヲ以テ現ハル、モノトセバ、實ニ此法則コソ貨銀ノ鐵則ナラヌ一ノ鐵則ト言ハ子バナラヌト思フノデアアル。

此クノ如ク社會生活ノ進化ハ個我ノ伸張ト社會組織ノ擴大ト言フ形ヲ以テ現ハレタ。既ニ過去ニ於テ然リシナラバ、將來モ亦然ラントハ我々ノ常識カラ言テ合理的ナ解釋ト言ハ子バナラヌ。

斯ク言ヘバ、或ハ輕卒ナル論者ハ、今日國際間ニ行ハル、同盟協約ト言フモノヲ提ゲ來ツテ、國家組織以上ノ大ナル Organization、大ナル Integration、既ニ茲ニアリト言フカモ知レヌ。ガ、ソレハ皮相ノ見解ト言ハナケレバナラヌ。何トナレバ統合 Integrationト言フ事ハ單ナル外形ノ膨脹ヲ言フノデハナクシテ、同時ニ鞏固ニシテ且ツ

強力ナル結合タル事ヲ意味スルカラデアル。而シテ此ノ強大且ツ鞏固ナル點ニ於テ今日國家組織ノ右ニ出ヅルモノハナイノデアル。斯クノ如クデアルカラ、縱令其ノ現狀ニ於テハ幾多ノ缺點ヲ含ンデ居ルニモセヨ、今日 Integration ノ方面ヲ代表スルモノハ國家デアルト言ハナケレバナラス。而シテ將來ニ就テハ我々ハ唯抽象的ニ更ニ大ナル統合ヲ豫想シ得ルニ過ギヌノデアル。

夫レト同時ニ個人ト言フモノ、意義ハ益々認メラレナケレバナラス。個我ノ伸張ハ先ヅ個我ノ覺醒カラ初メラレナケレバナラス。我國ナド個人ノ覺醒ガ甚ダ足ラヌト思フ。偶々アルモノハ曰ク電車ノ燒打、曰ク學校騷動等デアアルガ、之等ハ覺醒ニ似テ非ナルモノデアツテ、實ハ却テ民衆ノ無自覺ヲ語ルモノニ外ナラスノデアアル。此クノ如クシテ我々日本人ノ商業道德ハ今尙外國人間ニ其ノ存在ヲ疑ハレ、此ノ如クシテ我國ノ政黨ナルモノハ既ニ四十年ニ近キ齡ヲ重子テ居ルニ係ラズ、今尙ホ無能力デアアルノデアル。

要之、分化ト統合、個人主義ト國家主義トガ相互ニ調和シ、協力シテ進ム所ニ生活乃至社會生活ノ進化ガアル。而シテ此生活ノ存續ト發展ト言フ所ニ個人主義竝ニ國家主義ノ目標ガアリ、又其各々が主張サレ力說サルベキ Point ガアリ、限界ガアルト思フノデアル。